

アトランタパラリンピック大会参加報告書

平成8年9月 日

報告者 監督 桜井 誠一

コーチ 嶴内 高之

皆様の温かいご支援のもと、アトランタで開催されたパラリンピックに水泳競技の監督、コーチとして参加してまいりました。このような機会を与えて頂いたことに深く感謝いたしますとともに無事大役を果たせましたことは、ひとえに日本身体障害者水泳連盟の皆様を始め多くの関係者のお蔭とお礼申し上げます。

今回のパラリンピック日本選手団は、選手81名、役員42名、総勢123名ですが、水泳チームは選手7名、監督、コーチ2名、計9名と言う小さなチームでした。イギリス、アメリカ、スペイン、オーストラリア、ドイツといった選手の多いところと比べると寂しい気がいたしましたが、日本から寺西先生、竹田さんご夫妻、青木選手のご家族などの応援団を得て勇気100倍で競技に望みました。結果、29種目に出場し、19種目に決勝進出。金メダル5個、銀メダル3個、銅メダル4個合計12個のメダルを獲得することができました。

このような成果を得ましたことは、選手各人の努力はもちろんのことではありますが、ソウル大会以降の日本身体障害者水泳連盟の皆様を始め多くの関係者の方々の取り組みの成果と考える次第です。以下大会の報告をいたします。

1、大会期間

平成8年8月15日（木）から25日（日）11日間

（派遣期間8月12日から29日）

12日から14日 クラス分けテスト

15日 開会式

17日から25日 水泳競技 予選10時、決勝17時

25日 閉会式

2、水泳大会会場

ジョージア工科大学アクアティックセンター 50m×25m, 8レーン

3、選手村

ジョージア工科大学 寄宿舎ゾーン

4、参加国の概要（水泳競技）

50か国、448名（選手のみ）

主な参加国、イギリス51名、アメリカ42名、スペイン41名、オーストラリア30名、ドイツ28名、オランダ19名、フランス16名、スエーデン16名

5、競技規則

FINA 1994-1996、1994. 4月IPCハンドブック、1995. 2月
IPC SAEC-SW規則

6、日本水泳選手団

9名（選手7名、役員2名）

No.	役職	氏名	年齢	住所・（電話）・「勤務先等」
1	監督	桜井 誠一	47	[REDACTED] [REDACTED]
2	コーチ	嶋内 高之	41	[REDACTED] [REDACTED]
3	選手	青木 彰信	20	[REDACTED] [REDACTED]
4	選手	河合 純一	21	[REDACTED] [REDACTED]
5	選手	加門 智樹	20	[REDACTED] [REDACTED]
6	選手	坂野 嘉樹	22	[REDACTED] [REDACTED]
7	選手	松本 拓也	24	[REDACTED] [REDACTED]
8	選手	成田真由美	26	[REDACTED] [REDACTED]
9	選手	梶原 紀子	28	[REDACTED] [REDACTED]

8、クラス分け

クラス分けについては、「1996年アトランタパラリンピックのための機能テストガイドを基本にしている。」とあるが、資料としては配付されていない。

日本選手の内、1994年マルタ世界選手権、1995年プレパラリンピックに出場した選手は除外され、加門、坂野、梶原の3選手のみのテストが行われた。

我々の課題は、加門がS10からS9にならないか。梶原がSB3からSB4に変更されないか、また、成田のS4クラスは昨年のプレパラで大議論をした結果であったものの、平泳ぎのSB3クラスについては議論していないこともあり、もう一度確認をする。ということであった。

結果は、加門は議論なくS10、梶原は水中テストでは、泳ぎが上手なため、議論になり、時間がかかっていた。しかし、協調性テストなどが日本のテストより、低く出ており、SB3、S5という結果であった。

成田については、昨年テストした人が対応したが、認められないことであった。我々は納得出来ないがレースの中で良く見ておいて欲しいと要望して終わった。

9、ドーピング

昨年のプレパラリンピックでも日本選手は当たらなかったものの、ドーピングが行われることが分かっていた。また、日本選手団の医師からも、常用している薬などの報告を求められていたため、準備は整えていた。

腕に赤い腕章を巻いた係員が無作為に抽出した選手を連れにくる。

河合選手の100m自由形の決勝が終わると、ドーピングですといって現れた。表彰も終えて、1時間後に行う。水は飲んでもいいがそれ以外は飲まないようにとのこと。検査の内容は、医師による問診と尿の採取であり、問診では最近飲んだ薬について申告が行われた。尿については、本人以外が触ることは許されず、厳重にAサンプルとBサンプルに分けられた。Aサンプルで検査が行われる。結果、問題があれば3日後に通知が行くとのことである。Bサンプルは、問題が出た場合に本人の了解のもと再検査に使用するために保管される。

河合選手に続いて、100m自由形で優勝したと同時に成田選手もドーピングの対象となった。成田選手の場合は、日頃から、多種類の薬を飲んでおり、禁止薬物も含まれている。このため、申告にあたっては柴崎医師に付き添ってもらい申告を行った。その翌日、50m自由形で成田選手がまたも優勝、またまたにっこり笑って「ドーピングです。」と係員が現れる。無作為とはいえ、2日間も続けて当たるのには「疑われている」のか「彼女が強いことへの嫌がらせか」とぶつぶつ言いながら対応。

いずれも、3日たっても何も連絡なく「一安心」でした。

10、会議

16日にコーチミーティング、21日に選手ミーティング、23日にIBSAコーチミーティングが行われた。

16日は主に競技上の諸注意が中心で、プールサイドに入るためには許可申請書を毎日

出す必要があるとの説明があった。

21日はIPCの委員の構成に競技選手代表が含まれることになり、イギリスのポールが選ばれたことの報告と競技について、選手から見た諸問題について話し合われた。

23日は視覚障害者のクラス分けについて、IPCの取扱が厳しいことや今後の視覚障害者組織独自の取り組みについて話し合われた。

1.1、これからの方針

ア、今回の選手は国際大会の経験を経た者が多かったため、全般には各自で上手くコンディションをつくっていた。しかし、結果から見ると厳しい経験をした者の方が良い結果を出していたように思う。

これからも国際大会の経験を積み、エントリー種目等、勝つための知識をもたらせるようにしたい。

イ、小人数とはいえ、始めて長期間寝食をともにするので、お互いがもっと知り合う機会を事前につくっておくことが大切と思う。派遣選手だけの合宿が必要であると感じた。

ウ、ドーピングにあたっては、選手自身も知識を持ち、きちんと受け答え出来るようになないと困る状況が今後考えられる。ドーピングについての研修も必要だろう。

エ、自分の健康管理、メンタル面でのトレーニングも必要である。

オ、今回のチームは小人数とはいえ、障害も多様であった。全体の人数枠の問題もあるが監督、コーチ以外に競技団体としてサポーターが派遣できればと思う。

カ、中国チームは11名の団であったが、リレーにエントリーしてメダルをとっていた。日本も選手枠が拡がることを前提にリレーのエントリーも検討すべきと思う。

以上のことを考えると、早いうちに強化選手を選定し、合宿、研修会を積み重ねながら対応していくことが必要と考える

1.2、大会に参加して（日々の様子と感想。監督 桜井）

暑い日が続く8月10日

新宿戸山にある全国身体障害者総合福祉センターに集合の後、結団式を行うとともに日本選手団の共通荷物の準備。

8月12日の昼に日本を立つ。

期待と不安がいりまじっているのか、少し緊張の面持ちで機上の人となりアトランタへ、途中体温調節が出来ない成田や同じ姿勢をとりつづけた梶原が調子を崩しかけるも大事には至らず。（ホッ）

時差の関係もあって到着は12日の昼11時27分。

空港では日本人商工会議所の方々が日の丸をふって出迎えてくれていた。約10台の

車椅子がのれるシャトルバスで空港内につくられたＩＤカード発行センターへ向かう。最近日本でも導入されつつあるコンピューター写真製版技術によるＩＤカードの発行手続きである。アメリカは多人種、多民族が住む国である。全ては、公式に発行された証明書がなければ何も出来ない仕組みになっている。トラベラーズチェックを切るにも、本来パスポートナンバーの提示を求められるが、このＩＤでも十分なのだ。愛想のよいアメリカ人にスマイル、スマイルと言われて、思わずその気に。松本拓也が真面目な顔で「もいちど取り直し出来ませんか？」と尋ねてくる。男前に写っていないとのこと、思わず「．．．．」。

結構時間がかかるって、16時頃車椅子対応バスで選手村へ。

この時、各国に何か袋に入った土産物風の物が配られていたが、日本は人数が多いので後で渡すことでのままバスへ、この中に選手村ガイド等が入っていたことが分かったのは、苦労して選手村にやっと慣れた時期、入村して10日が過ぎた頃に配られてからである。（教訓1、日本人の要求しない美德は良い結果を生まない）

選手村はジョージア工科大学の学生宿舎である。

ここでは、水泳チームが女子と男子が1階と2階に分かれ、私が5分ぐらい離れた宿舎と3つに分散した。電話もついておらず、ついていても番号が分からずといった状況でこれは、非常に困った。

嶋内コーチの工夫で女子は何とか2階に集約することが出来たが、私との連絡は持参した小型のトランシーバーに頼ることになった。しかし、これもプールのような狭い範囲であればその威力を発揮したが、建物にさえぎられる条件下では、なかなかうまく届かず、苦労した。（教訓2、アメリカは広い、無線機は絶対必要）

ここで少し、選手村の概要に触れておこう。

選手村はジョージア工科大学の敷地の約1／4を使っている。ジョージア工科大学の敷地は約21エーカー（約83千平方メートル）ある広大なもので、かなり坂がある。障害者にはかなり厳しい条件と言えよう。勿論年寄りにもです。この対策に4両連結の電気自動車を回遊させていたが、時間がかかることもあって、よく歩いた。帰国後も足腰が筋肉疲労で大変でした。歳を感じますトホホホ

選手の宿舎はまだ新しく、4室にリビングとキッチン、トイレと風呂が2つついている。なかなかしゃれたつくりである。しかし、最近、突貫工事で間に合わせたのか、エレベーターも時々オーバーヒートしてとまったり（原因は車椅子の重量と説明があったが、？である。）、水洗トイレもよくつまって困った。このため専任の連絡員が出来たほどである。青木君ご苦労さま。

この原因は紙を使い過ぎるからとのことだったが、アメリカ人は紙をあまり使わないのか不思議である。

地下には、選手のためのサービスセンター設けられている。また、洗濯も15から16台の洗濯機、乾燥機がおかれしていて、洗剤も支給されていた。

なのに何故か毛布が無く、交渉の末やっと配付される有り様である。

私の宿舎は古いため、共同トイレに共同シャワーで部屋はベッドと机のみ、すっきり

したものである。部屋は私一人だったのでトイレへいくのも部屋の鍵をかけていたが、後で窓の鍵が壊れていて意味がないことを発見、貴重品を持ち歩いた。

村の中には、大型テントでつくった食堂、インターナショナルゾーンと呼ぶにはちゃんと利便施設群（公衆電話、カメラ屋、花屋、散髪屋、車椅子等の修理、土産物屋、このゾーン内でしか外部の人は入れない）、クラブと呼ばれる小さな野外ステージ等があるが、当初は郵便物を扱う所や両替もなく、苦情がでていた。日本選手団本部の電話やFAXもなかなかつかず困ったらしい。

食堂は本当に広い、食事の種類は毎回同じもので、ホットミールとコールドミールに分かれている。日本人向けの味付けとはいかないが、アイスクリーム、ケーキ等もあり、欧米系の食欲と体の大きさに圧倒されながらも、我が選手団は負けずに食べた。
(泳ぎでもまけるなよ。)

ボランティアがいて、車椅子の選手などはテーブルまで食事を運んでくれたりする。有り難いが、順番に並んで順次注文していくので時間がかかる。行列が暑い炎天下、テントの外まで出来てしまう。この方を何とかするのが親切と思うのだが...

さすが口可口楽（中国語です、中国チームの鞄に書いてあった。11人と中国の方が選手の数が多いのはこの姿勢の差ではないかとツツツ）の本社のあるまちである。スポーツドリンク、ミネラル、口可口楽等飲み物はすべて無料である。暑さも手伝って思わず手が出てしまう。

選手村から各会場に向かうバスは13日から大混乱だったらしい。

待ち時間半日もあったとか。この情報によって、バスに乗って行かねばならないダイナモ練習プール会場へは行かず、休息時間にあてた。このため選手村の隣にある水泳競技会場のメインプールとサブプールのみで、1日2時間の練習となったが、結果としては環境に慣れるのに丁度良い量になった。

練習後は写真を撮ったり、食堂で食べすぎたり、はがきを書いたりとリラックス。

13日行われたクラス分けテストも梶原のSB3に少し時間がかかったもののOK。

加門はS9にならず。少し残念。成田も昨年のテストに不満もあって、平泳ぎのテストを受けたいと申し出たが無理であった。予想どうりといえば予想どうりなのだが
...

14日、水泳チームのサポーターのプール内入場について交渉。

日本出発前から懸案事項であった。河合選手の合図棒について、寺西先生がプール内に入つて出来るように交渉に向かう。水泳の最高責任者であるマークポンジーロにアタック、APOC（アメリカパラの委員会）でないと判断できないといわれる。色々たらい回しされた後、「2000ドル払えばIDカードを発行出来る。」との答えである。

疲れて、諦めて帰る。通訳の大原さんのタフな交渉に感心。お付き合いご苦労様でした。

15日、開会式である。

「人間の魂の勝利」のもと史上最高の116か国が集まった。選手村を16時に出て入場待機すること約5時間、オリンピックスタジアムには約6万人の大観衆、6500人のボランティアが迎えてくれる。我が日本選手団は「ジャマイカ」の次「ヨルダン」

の前である。7列に並んだ我が選手団は他国に負けず胸をはって入場、日の丸を振って迎えてくれる応援団に、しっかりと手を振って行進。黄色と青のコスチュームを着た中学生が椅子をもって来てくれる。なかなかの演出だ。トーチへの点火ではロッククライマーで下肢障害者がロープをよじ登って聖火を点火するという感動的なものである。セレモニーではゴア副大統領が出席、スーパーマンこと俳優のクリストファー・リーブ等が挨拶。カークファミリーのオーハッピーデイの歌に始まり、ソウルミュージックの女王アリサ・フランクリン、ブロードウェイスターのライザ・ミネリー等の素晴らしい音楽が続く。朝までかかるのではないかと思うぐらいである。11時過ぎると流石に疲れてきて、明日から試合の選手は引き上げ始めた。水泳チームも早めに引き上げる。（スイスチームは最後までいたのか、開会式が長すぎたことや選手村での待遇が悪いと言って閉会式を欠席したらしい。教訓3、アメリカでは自分のペースにあわせる臨機応変が必要。）

16日、最後の調整。

13時から2時間の調整。最後の調整である。皆真剣に調整している頼もしい。

18時過ぎ日本からの水泳応援団竹田さん一行が選手村へ訪問。さすがに疲れているようだ。わいわい言っていると時間を忘れる。しまった。19時からコーチミーティングだ。通訳の宮原さんが先に行って助かる。宮原さんありがとう。明日からの予選のスケジュールをもらい、各国からの質問のやり取りがあって終了。プールサイドに入るのには、リストバンドとやらを毎日もらわないといけないらしい。1時間前に所定の用紙に記入の上申請、許可されるらしい。さすがに厳しい、これもテロ対策か？ そういえば、至る所に警官がいてチェックをしている。

17日、いよいよ競技が始まる。河合100バタ、成田150個メ

プールの連絡箱を覗くが特に何も入っていない。昨日の資料では、河合が決勝レース。午前中は成田の150m個人メドレーのみ、成田は2コース、宿敵ドイツのカイは4コースである。スタートとともに放される。強い。練習では、首にガードルをまいて泳いでいたとは思えない強さである。結果イギリスのマーガレットにも負けて3位で予選通過。マーガレットは平泳ぎが強い。カイは背泳ぎが強い。成田は平泳ぎが課題だ。

4位のアメリカ、エイミーの泳ぎからみて銅メダルはとれると踏んで予選を終わる。

17時からの決勝に向かう。壁に張り出した予選の結果を見て「唖然」河合の100mバタフライの予選がおこなわれているではないか。

早速、どうなっていたのか調べると同時に河合に連絡。もともと彼本来のクラスは競技が成立せず、B2クラスでの出場となっていたのだが。

修正の連絡は連絡箱に入れていると言う。結果、本部扱いのボックスに入っていることが判明。我々のミスである。IPC技術委員長のアングリーンと協議。「どこか病気だったのか」とのこと、「風邪である。」との話で決着。ペナルティーは課されないことになった。嶋内コーチと相談の上、本部扱いのボックスは水泳に限り我々の扱いにしてもらうことにした。柴崎先生ありがとうございました。（教訓4、油断大敵何事にも細心の注意を。）

順当に成田が銅メダル、嬉しい。

18日、河合200個メ、加門100バタ、松本50バタ。

S10の加門、S7の松本にとっては、全体に厳しい争いであるが、この日の種目が比較的期待ができる種目である。上手く決勝に残った。加門は4位、松本は7位残りである。加門は3位との差が0.08、2位とは0.76である。しかも50mの入りは加門が良い、期待がかかる。決勝、50mの入りが悪い。ラストがんばるも4位残念。

松本の決勝、何かごそごそしている。IDカードをつけていないので注意されている。心理的に影響されなければよいが…。2位残りのエジプトの選手が2回目スタートフライングで失格となる。チャンスが広がる。結果は6位、順当なところか。河合は上手くまとめて3位、銅メダル。結構ルールは厳しい、失格が良くでている。それに対する抗議もでている。ミーティングで選手に注意するように伝える。

19日、河合100平泳ぎ、加門400自由、坂野400自由、松本400自由

朝、一昨日足に熱湯を少しかけてしまった成田。一部水膨れになっていてものが破れたとのことで、日本本部へ治療にいく。大事にはいたっていないが、気になる。

またまた、問題が生じた。河合の合図棒のため、リストバンドの申請をしたのだが、時間が過ぎている、と言って受け付けない。タイのコーチも同じことで揉めている。受付では解決しない。結局アングリーンである。事務が煩雑なので時間を変えたと言う。明日から守ってほしいと言われたが、これは全く通知無かったので苦情を言っておく。

予選が始まった。松本は昨日の疲れか調子が悪い、ベストより20秒近く遅れている。坂野はS8であるが、下肢障害に比べてこのレースは不利である。ともかくベストをつくした。決勝進出ならず。加門、積極的なレース運びだ。期待がもてる。この種目に一番練習をしてきたと言う。予選5位、いい位置につけている。決勝飛び出しは良い予選のペースを上回っている。頑張れの声が飛ぶ。最後の100mで遅れだした。ばてたか？予選より5秒遅い4分41秒64 8位である。

河合は苦手な種目、またまた上手くまとめた。5位。

成田が肩が痛いと言いました。朝から竹田さん達の応援団席にいて頑張っていたのに、どうしたのだろう。

20日、青木200自由、成田200自由

朝から肩が痛いと言う成田、大胸筋がはっているようだ。決勝なので医務室によってからプールへ来るように指示をした後、青木を連れて予選レースに望む。青木の家族も応援に駆けつけている。がんばれ青木。緊張の面持ちの青木、スタートした。早い50mをベストに近い記録で入ってきた。オーバーペースだ。「おかしいぞ」嶋内コーチと顔を見合わす。75m付近で頭が息苦しそうにあがる。「水でも飲んだか」心配である。100mのターンをして125m付近で棄権。体に何もなければ良いがと駆けつける。悔しそうな青木。

結局、オーバーペースが原因のようだ。昨年のプレパラのイメージがあり、隣の選手のペースに惑わされたらしい。後のレースに響かなければよいがと心配する。

(教訓5. 国際大会は魔物、ペースは練習の積み重ね。)

成田のガツツは素晴らしい。大胸筋が痛いといっていたのでアップはゆっくり長くする

。スタートと同時にドイツのカイと競り合う。いいスプリントをしている。50mではほぼ同時に入る。100mもほぼ同時だ。150mで1秒あけられた。結果は3分22秒47と0.65の差で2位。良くやった。次は勝てる。

大胸筋の痛みは？結果よければ忘れます。

21日、梶原50平泳ぎ、成田50平泳ぎ、河合100自由

梶原、河合の期待がかかる日である。成田は昨日の結果で気分よく「今日は梶原さんに任して晩はお食事に街へでかけようかな」なんて言っている。河合は「予選は4秒ぐらいでいいでしょう」と余裕を見せてている。こちらは、合図棒のタイミングがうまく行くか悩んでいるのに。

スタートと同時に「オー」とどよめきがあがる。梶原がどんどん2位を放していく、凄いダッシュだ。イギリスのマーガレットが焦った泳ぎに見える。成田はドイツのカイに必死で離れまいとしている。〔KAJIWARA, NORIKO JPN 55.51WR〕の文字が見える。足に痙攣が出るぐらいがんばった梶原。凄い、凄い、凄い。予選1位と5位で二人とも決勝へ。河合も2位で決勝へ、1位はアメリカのダニエル・ケリーで1分2秒である。泳ぎから見て、1秒は切れないだろう。イギリスのティモシーの泳ぎが良い。不気味である。

梶原と成田の決勝。またまた54.21世界新記録だ。成田がスペインの選手をかわして4位にはいった。

河合とケリーの泳ぎは良く似ている。レース運びでは河合が上だ。ケリーは粗削りだが伸び盛りと見た。また、大観衆がついている。スタート良く河合が出る。ティモシーがロープに引っ掛かる。ケリーが追いかける。うまく合図棒も決まった。28.51で河合がトップで折り返す。最後、ケリーへの大声援だ。ため息に変わる。河合1着。ケリーに0.29差の1分1秒18だ。危ない危ない。

河合ドーピングです。「やっぱりドーピングはあったのだ。」と感激。
通訳の宮原さん、河合の尿検査つきあってもらってありがとう。

2回も君が代が聞けた。「今日で日本全体でバルセロナのメダル数を上回った。」と中島団長。まだまだ水泳がりますよ、と密かに誓う。

22日、加門100自由、坂野100自由、松本100自由、成田50背泳、 梶原50背泳

今日は5人が試合に出る。いずれも厳しい種目である。予選が始まった。松本のクラスだ。松本がスタートの用意で注意を受ける。最初から足を掛けてしまったのだ。あがっているのか？やはりスタートが悪い。（教訓6. ルールは厳しい、日頃からの習慣に注意）この組6着だ。いつもの泳ぎがでない。坂野50mを33秒24ではいる。「よし、いけ、いけ」声援がとぶ。75mから伸びない。この組で2着だが1分12秒かかった。厳しい。加門は1分を切れず、1分00秒79惜しくも9位残りだ。8位との差は0.23秒明暗を分ける。いつも惜しい。加門の出場種目はこれで終わった。ご苦労さま。

梶原はリラックスして予選通過。決勝は8位。成田はまたまたドイツのカイに負けて2位

。予定どうりと言えば予定どうりなのだが…

ニュージーランドのB1クラスの選手ジェイソンのコーチが来て、スイムコムと言う視覚障害者用の音声感知装置を開発中とかで、河合に使ってみたいと言ってくる。了解して使ってみる。「練習用には使えるが試合にはどうか?」と河合の意見。色々雑談する中で、1か月くらいの長期合宿をこなしてこの大会に臨んだとのことに驚く。

この日はアトランタ特有のスコールがあるなど変化にとんだ1日であった。

23日、青木100自由、成田100自由、梶原100自由

青木が100自由に挑戦の日だ。200自由の影響が心配である。影響を克服するよう100のレースペースを中心に調整を図ってきた。アップも量を減らして、その分ストレッチを入念にするように切り換えた。青木には「魔法のストレッチをしてやる。必ずかかるぞ」と暗示をかける。予選スタートした。ストレッチのしすぎなのか力が入っていない。50mを52秒24もかかっている。「やばい、ゆっくり過ぎる。予選落ちるぞ!」突然泳ぎが変わる。ぐんぐんスピードがあがる。他の選手を追い抜くと2位でゴール。

1分42秒67だ後半が50秒43、「どうなっているのか?」「心臓に悪い。」と嶋内コーチと顔を見合わす。結果は4位残りで決勝へ。3位との差は0.06秒だ。前半もっと早く入れば勝算ありだ。決勝。またもストレッチをしっかりとおこなう。今度は50mを4位、49秒57で入ってきた。「がんばれ彰信!」、家族の声援も必死だ。3位のデンマークの選手は四肢が短かく、ものすごいピッチだ。追う青木。奇跡が起こった。1分39秒94全くの同タイムである。3位が2人生まれた。本当に心臓に悪い。しかし、彰信おめでとう!(教訓7. 自分と神を信じよう。)

梶原は得意の種目でないので悠々と泳ぐ。それでも8位。ご苦労さん。成田が車椅子から落ちた。今日はいつもより湿度が高い。日にはあまりあたっていないはずなのに。昨日からのTV取材の疲れか?水で必死に冷やす。この間もTVカメラは回っている。頭を打っていなければ良いが… 医務室に運んでもらって、柴崎医師に連絡をとる。何とか大丈夫のようだ。決勝までまだ時間がある。

(教訓8. 自己管理も一流スイマーの条件)

決勝に臨んでアップは無理をせずにゆっくりゆっくり。「昨日のカイの泳ぎを見ていると疲れがたまっている。ここは勝負だ。」「ともかく50mのレースのつもりで先行して、カイをあわてさせよう」と嶋内コーチと打ち合わせる。

決勝のスタート闘士一杯の成田。スタートした。ぐんぐんとばす。50mを44秒25ではいる。カイに1秒74。差をつけている。75m、カイのコーチが握手を求めてくる。「これでもらった。」。握手を返す。1分36秒23世界新記録だ。ドーピングのおまけもついてトップスイマーの風格です。ドラマをつくる成田に脱帽。

24日、青木50自由、河合100背泳、成田50自由、梶原50自由

昨日で自信をつけた青木。余裕の2位で予選通過。しかし、決勝は少しタイムが落ちて44秒83の3位。銅メダル2つは立派だ。

河合は予想どうり2位。1位はアメリカのケリー。明日の50mはいただくなぜ!

梶原予選9位、惜しい。成田の決勝。もう何も言わなくても勝てる。カイはついてこれな

い。2つ目の金メダル。世界新記録。またまたドーピング。「疑われているのか?」と気になる。

今日で金4個、銀3個、銅4個の11個二桁にのった。地元の人も珍しいというほど激しいスコールもシャンパンの代わりだ。

25日、最終日、河合50自由、坂野50自由、松本50自由

坂野、いいダッシュで飛び出した。31秒65、他も強い。松本33秒40とどちらも予選の組5位。がんばったが届かず。最後の日まで良くやった。これからも頑張ろう。

河合の予選、一人だけ27秒63という27秒台で余裕である。しかし、最後のダッシュが遅い気がする。スタートもピッタリと合っていない。少し心配。

最終日とあって、通訳の宮原さん、ジロー君など日本選手団から多くの応援が来てくれた。河合の金メダルに期待がかかる。「表彰式は浴衣でですよ」とプレッシャーのない河合。いよいよ決勝、選手の紹介が始まる。「4コース、ジュンイチ・カワイ」コールとともに今までとったメダルの紹介。「5コース、ダニエル・ケリー」大声援である。この声援に勝つと思うと小気味良い。一瞬の静寂、スタート。今度はいい。6コースのイスラエル、コーエンが出てくる

ケリーが追ってくる。河合が逃げる。ラストの20m. 河合のキックが鋭くなる。

歓声があがる。電光掲示板の4コースに記録ができる。「勝った！」

5回目の「君が代」、12個のメダル、感無量。

(教訓9. セレモニーはユニフォームという礼服がよく似合う)

25日 20時閉会式。

ビールも飲みながらの嬉しい閉会式。ボランティアの松本さん親子も見に来ているリラックスと交流の場、いつの間にか帽子、ユニフォーム、シャツの交換が行われ、日本選手かと思うと、他国の人。音楽音楽の連続。心地よい疲労。

26日 始めてで最後の自由行動、街へバスと地下鉄を乗り継いでお買物。

帰って、荷物の整理と慌ただしい。もっとゆっくりしたいなあ。

27日 日本選手団での市内観光と買い物。ヒルトンホテルに一泊。

中島団長、藤原総監督から、日本選手団の活躍が報告される。金は14個、銀10個、銅13個、計37個とバルセロナを大幅に上回った。金は倍増。我が水泳チームが三分の一を占める。

28日 日本へ向けて機上の人となる。

アトランタの方々ありがとう。昨年のプレパラリンピックでもお世話になった小田さん、古川さん(なんとこの方は坂野君の会社の人の奥さんでした。)。おかげで頭のキミさん、留学生の飯田さん、そして、常に我が水泳チームにいてくれたジョージア工科大学留学生の道家治郎(ジロー君)さん、本当にお世話になりました。

また、ここまで努力してきた選手の皆さん、ご苦労さまでした。最後までチームワーク

を大切に協力してくれました。次はシドニーを目指そう。

中島団長、藤原総監督ありがとうございました。

柴崎先生はじめ医療チームの皆さん本当にお世話になりました。

若菜さんはじめ本部総務の皆さん、パワーリフティングの安西先生、柔道チームの高垣さん、色々ご指導ありがとうございました。

他にも書ききることが出来ないほどです。あらためて感謝申し上げます。

(教訓10. 多くの人の支えによってもたらされた勝利であることを忘れてはならない)

パラリンピック全体では、19競技にわたって、参加国数102か国、3218名が8月16日から25日まで熱戦を繰り広げました。日本は10競技に参加、81名の選手が競技に参加いたしました。

水泳競技は、17日から25日まで毎日選手村であるジョージア工科大学にあるアクアティックセンター（オリンピックと同じプール）で行われました。

水泳競技では、50か国、434名が参加しました。参加数の多いのは、イギリス51名、アメリカ42名、スペイン41名、オーストラリア30名、ドイツ28名といったところです。

日本からは、過去の実績によって7名の枠が決められ、7名が参加、29種目に出場、結果は金メダル5個、銀メダル3個、銅メダル4個、合計12個のメダルを獲得、日本が獲得した37個の内1／3を占めるという快挙をなし遂げました。また、世界記録も3種目に樹立するなど素晴らしい活躍をいたしました。

水泳競技は先ず切断、脳性麻痺、脊椎損傷などをその残存機能によってクラス分けを行います。クロール、バタフライ、背泳ぎの動作を判定して機能の重い方からS1からS10、平泳ぎの動作を判定してSB1からSB10、個人メドレーの動作を判定してSM1からSM10とクラスを分けて、そのクラス毎に競技が行われます。視力障害者は全盲のB1からB3までに分けられます。日本からは、男子がS4、S7、S8、S10、B1の5名、女子S4・SB3、S5・SB3の2名がそれぞれのクラスで戦いました。

過去の大会に比べても、昭和63年のソウルが銅メダル2個、平成4年のバルセロナ大会が銀2個、銅4個、計6個であったことを考えると、金メダルを5個獲得した意味は大きく、今後の世界大会参加枠の拡大、障害者スポーツにおける水泳競技への興味、競技人口の増大などが期待されます。

この様な成果をあげてこれましたのも、皆様のご配慮のお蔭と深く感謝申し上げる次第です。

有り難うございました。

平成8年8月30日

桜井 誠一

7、成績

大会は159の種目が行われ、日本はのべ29種目にエントリー。

金メダル 5個 (世界新3つ)

銀メダル 3個

銅メダル 4個

合計 12個

結果	氏名	クラス、種目	記録
金	河合 純一	B1 50m 自由形	27' 24
		B1 100m自由形	1' 01' 18
	成田 真由美	S4 50m 自由形	44' 47 世界新
		S4 100m自由形	1' 36' 23 世界新
	梶原 紀子	S B3 50m 平泳ぎ	54' 21 世界新
銀	河合 純一	B1 100m背泳ぎ	1' 13' 43 1位1' 09' 92 アメリカ
	成田 真由美	S4 200m自由形	3' 22' 47 1位3' 21' 82 ドイツ
		S4 50m 背泳ぎ	54' 87 1位51' 48 ドイツ
銅	青木 彰信	S4 50m 自由形	44' 83 1位41' 85 スペイン
		S4 100m自由形	1' 39' 94 1位1' 31' 35 スペイン
	河合 純一	B1 200m個人メドレー	2' 36' 41 1位2' 30' 94 アメリカ
	成田 真由美	S M4 150m個人メドレー	3' 08' 63 1位3' 00' 39 ドイツ
4位	加門 智樹	S10 100mバタフライ	1' 05' 21 1位1' 02' 44 イギリス
	成田 真由美	S B3 50m 平泳ぎ	1' 07' 37 1位54' 21 日本

5位	河合 純一	B1 100m平泳ぎ	1' 23' 32	1位1' 13' 84 デンマーク
6位	松本 拓也	S7 50m バタフライ	36' 97	1位33' 78 ブラジル
8位	加門 智樹	S10 400m自由形	4' 41' 64	1位4' 26' 55 オランダ
	梶原 紀子	S5 50m 背泳ぎ	1' 08' 16	1位45' 86 フランス
		S5 100m自由形	2' 00' 44	1位1' 23' 84 フランス
決勝 進出 ならず	青木 彰信	S4 200m自由形	棄権	
	河合 純一	B2 100mバタフライ	棄権	() は8位記録
	加門 智樹	S10 100m自由形	1' 00' 79	9/24 (1' 00' 59)
	坂野 嘉樹	S8 50m 自由形	31' 65	13/22 (31' 00)
		S8 100m自由形	1' 12' 57	22/24 (1' 08' 05)
		S8 400m自由形	6' 09' 29	14/15 (5' 22' 24)
	松本 拓也	S7 50m 自由形	33' 40	15/29 (32' 90)
		S7 100m自由形	1' 12' 86	17/24 (1' 10' 28)
		S7 400m自由形	6' 06' 56	18/18 (5' 20' 77)
	梶原 紀子	S5 50m 自由形	56' 00	9/10 (52' 46)